

第4次小千谷市生活交通確保計画

平成31年度（2019年度）～2023年度

平成31年（2019年）3月

小千谷市

目 次

序章 計画の目的など

- 1. 計画の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 計画の目標年次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 第4次計画の主な検討事項・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4. 計画の策定体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第1章 総 論

- 1. 小千谷市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (1) 人口の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) 高齢者世帯の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2. 生活交通の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (1) 近年の生活交通の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (2) 最近の国・県における交通政策の動向・・・・・・・・ 5
 - 国における交通政策・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 県における交通政策・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (3) 主要道路・施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (4) 鉄道の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 鉄道の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 鉄道の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (5) 路線バスの現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 利用者の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 路線バス運行の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 地域間幹線系統・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 廃止路線代替バス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 過疎地域路線バス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - シャトルバス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - 循環バス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - 高速バス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - (6) その他の乗合輸送手段の現状と課題・・・・・・・・ 13
 - コミュニティバス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - 乗合タクシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - スクールバス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

第2章 生活交通確保の基本的な方針及び方策

- 1. 近隣市を結ぶ生活交通の確保・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 2. 市内における生活交通の確保・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

- 資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18～34

序章 計画の目的など

1. 計画の目的

当市では、平成 25 年 10 月に「第 3 次小千谷市生活交通確保計画」を策定し、地域公共交通の活性化と効率的な運行を確保してきました。また、平成 29 年 4 月の小千谷総合病院移転に伴い、市街地における路線再編を行うことで、通院における交通手段を確保してきましたが、人口減少や少子高齢化の進行等により、利用者が極めて少ないバス路線では、廃線により代替交通を導入した地域もあります。

このような状況から、平成 30 年度で第 3 次計画期間が終了するため、当市の現状と課題を踏まえ計画の更新を行いました。本計画は、市民の生活交通を確保するための手段として利用されている路線バスの維持と共に、地域の実情や特性等を考慮した効率的・効果的な交通手段による生活交通の確保を目的に策定するものです。

2. 計画の目標年次

(1) これまでの計画期間

当初計画 平成 16 年度から平成 20 年度まで（平成 15 年 8 月策定）

第 2 次計画 平成 21 年度から平成 25 年度まで（平成 21 年 3 月策定）

第 3 次計画 平成 26 年度から平成 30 年度まで（平成 25 年 10 月策定）

(2) 今回の計画期間

第 4 次計画 平成 31 年度（2019 年度）から 2023 年度まで（平成 31 年 月策定）

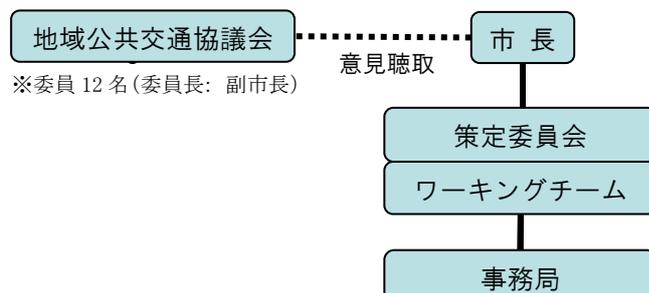
3. 第 4 次計画の主な検討事項

- (1) 公共交通の現状と利用促進について
- (2) 地域の特性等を考慮した効率的・効果的な新たな生活交通の検討・確保について
- (3) 中心市街地と周辺地域を結ぶ公共交通ネットワークの維持・確保について

4. 計画の策定体制

本計画の策定に当たっては、関係課で構成する策定委員会及びワーキングチームを設置し、協議・調整を行いました。また、策定過程において、小千谷市地域公共交通協議会から意見聴取を行いました。

図表 1 策定体制



第1章 総論

1. 小千谷市の概要

当市は、新潟県のほぼ中央に位置し、東西 17.21 km、南北 20.01 km、市域面積は 155.19 km² 周囲 86.1km で、北、東及び西は長岡市、南は十日町市に接しています。大河信濃川が南北を縦断して流れ、信濃川が造り出した河岸段丘の美しい景観は、当市の特徴の一つとなっています。

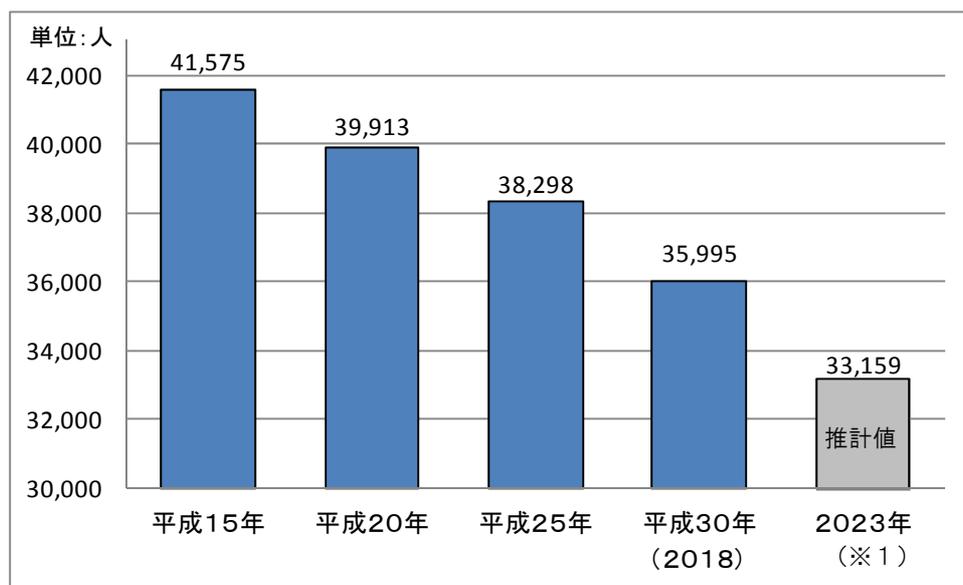
小千谷縮や錦鯉に代表される独自の文化と産業が生まれた当市は、後世に伝統技術を受け継ぐとともに、精密機械工業、電子機械関連工業、食品工業等を中心に田園工業都市としての発展を目指しています。

(1) 人口の推移

当市の人口は、平成 30 年 3 月末現在 35,995 人（住民基本台帳）であり、平成 25 年 3 月末と比較して 2,303 人（6.0%）の減少となりました（図表2）。今後も減少傾向が続くと推計されています。

年齢別人口比率では、15 歳未満が減少し、その一方で 65 歳以上が増加しており、いわゆる少子高齢化が進んでいます。特に、人口に対して 65 歳以上の高齢者の占める割合である高齢化率は、平成 25 年 3 月末の 28.8%から平成 30（2018）年 3 月末には 33.1%となり、2023 年には 35.5%まで上昇すると推計されています（図表3）。

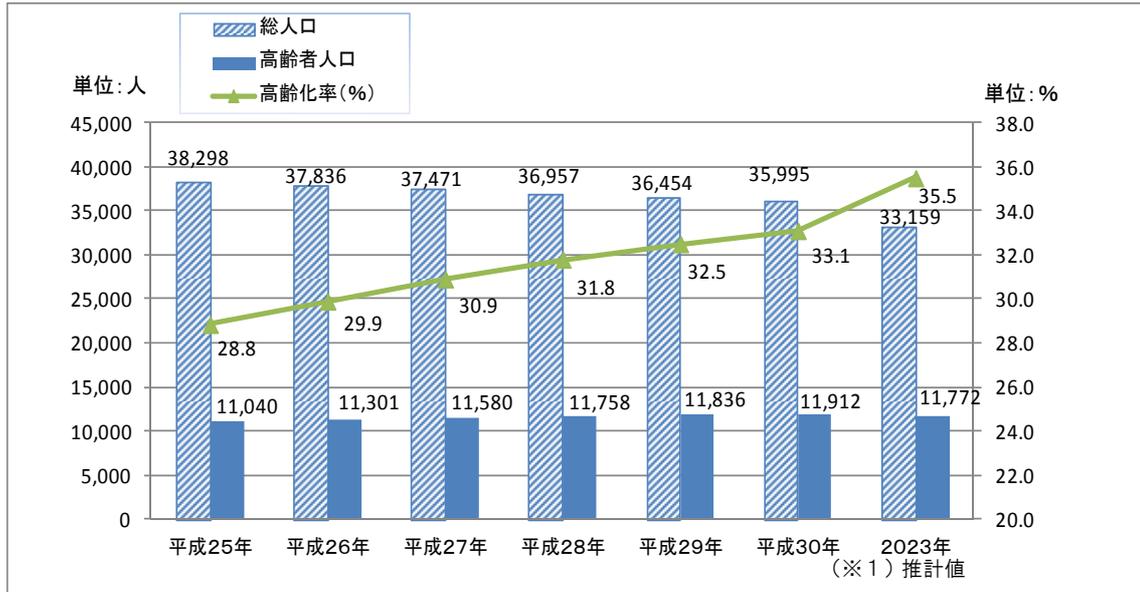
図表2 人口の推移



資料：住民基本台帳（各年 3 月 31 日現在）

（※1）2023 年推計値は小千谷市高齢者福祉計画・第 7 期介護保険事業計画より

図表3 高齢化率の推移



資料：小千谷市の社会福祉 2018 年版（各年 4 月 1 日現在）

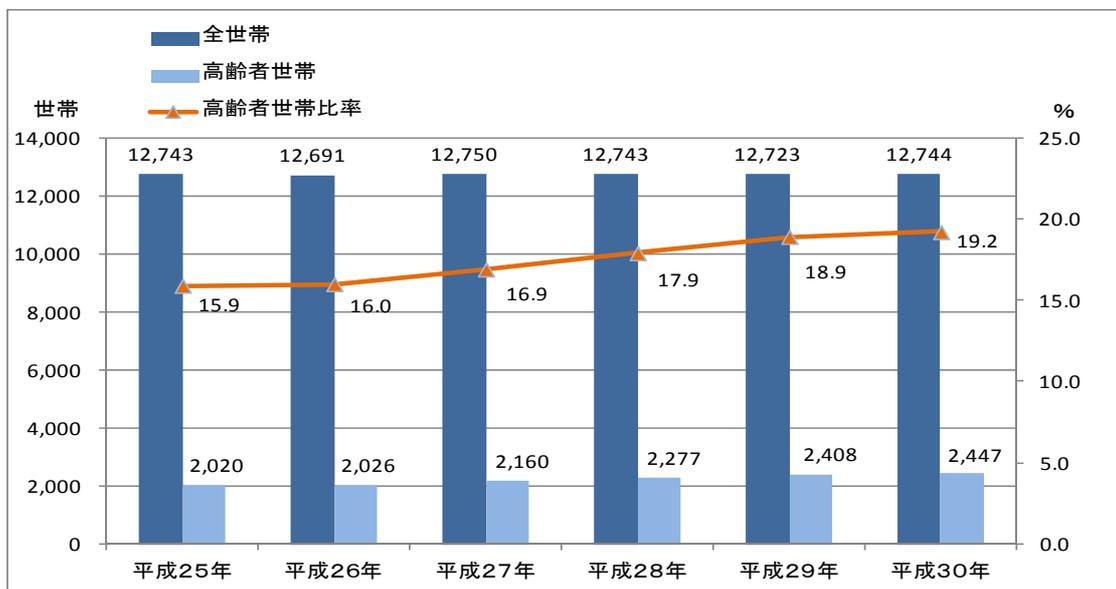
(※1) 2023 年推計値は小千谷市高齢者福祉計画・第 7 期介護保険事業計画より

(2) 高齢者世帯の推移

高齢者世帯(※2)は、平成 30 年 4 月 1 日現在 2,447 世帯で、平成 25 年の 2,020 世帯と比較して 427 世帯増加しています(図表4)。また、世帯類型別を平成 25 年と平成 30 年で比較した場合、高齢者単身世帯の構成比は 7.0%から 8.8%へ、高齢者のみの世帯の構成比は 8.8%から 10.3%へいずれも増加しています(図表5)。

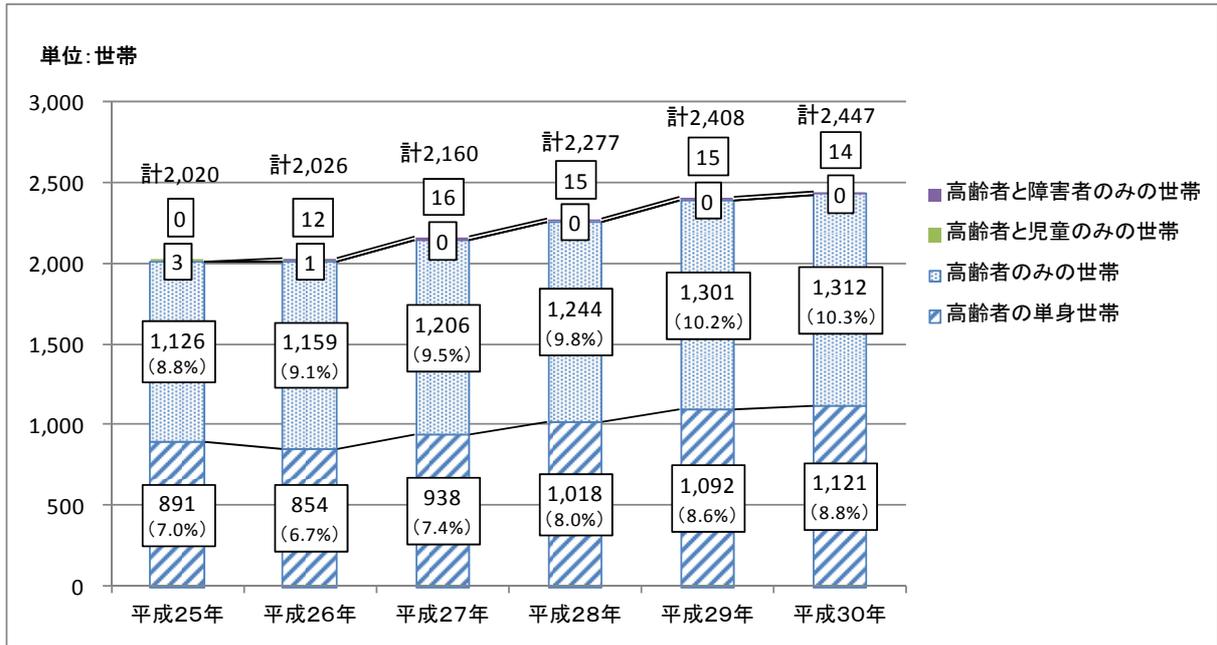
(※2)「高齢者世帯」とは、65 歳以上の人のみで構成される世帯及び 65 歳以上の人と 15 歳未満の児童のみ、また 65 歳以上の人と障がい者の人のみで構成される世帯をいう。

図表4 全世帯に占める高齢者世帯の推移



資料：小千谷市の社会福祉 2018 年版（各年 4 月 1 日現在）

図表5 高齢者世帯類型別数の推移



資料：小千谷市の社会福祉 2018年版（各年4月1日現在）

2. 生活交通の現状と課題

(1) 近年の生活交通の変遷

当市における主要公共交通機関は、鉄道と路線バスであり、通勤・通学や通院、買い物などの生活に密着した身近な交通手段として多くの市民から利用され、重要な役割を担ってきました。

しかし、主要幹線道路の整備やモータリゼーション（自動車化）の進展に伴い、自家用車利用者の拡大による生活環境の変化や人口減少などの社会情勢の大きな変化により、路線バスの利用者は年々減少しています。市内における自動車保有車両数は、昭和50年の10,118台から、平成29年の28,669台と大幅に増加しています（図表6）。しかしながら、平成20年以降はほぼ横ばい状態が続いていることや、高齢者の運転免許証返納者が増加傾向にあることなどから、今後の推移とその要因を分析しつつ、動向を注視する必要があります。

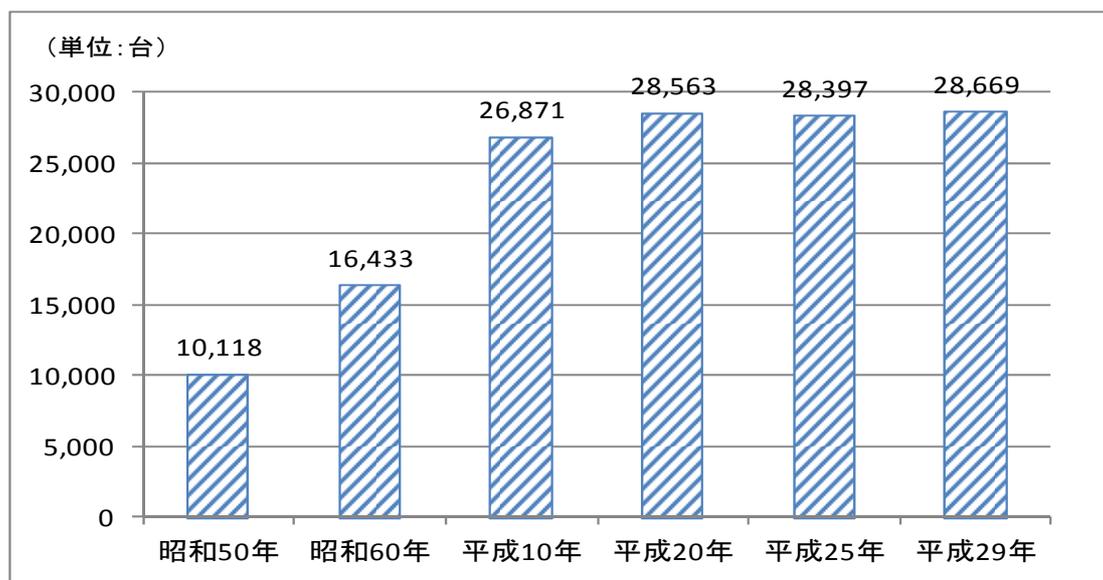
また、平成29年4月に2つの民間病院の統合により、平沢地内にJA新潟厚生連小千谷総合病院が開院したことに伴い、市街地におけるバス路線等の大幅な運行経路の再編を行い、病院への公共交通におけるアクセスを確保するとともに、ハブ（中心）となっている本町～小千谷駅間の中心市街地と郊外の住宅地を結ぶ循環バスの運行を開始しました。

ハード面では、高齢化社会の進展により、路線バスの一部にノンステップバスの導入が進められています。

路線バス以外の運行方法としては、路線バスが廃線となった沿線地域の生活交通確保のため、地域の実情に合わせて乗合タクシーやコミュニティバスを運行していますが、より一層の利用促進を図るため、運行時刻及び経路の定期的な見直しや利便性を高めるデマンド運行（※3）などが必要です。

（※3）「デマンド運行」とは、利用者から事前に連絡を受けて運行する、予約型輸送サービスをいう。

図表6 自動車保有車両数



資料：小千谷市統計書（各年3月31日現在）

（2）最近の国・県における交通政策の動向

○国における交通政策

国においては、平成19年10月に施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」により、地域公共交通の維持及び活性化に取り組む地域協議会などを支援する「地域公共交通活性化・再生総合事業」を推進してきました。また、平成25年12月に施行された「交通政策基本法」における生活交通の確保、まちづくりの観点からの交通施策促進、関係者相互の連携と協働の促進等を具体化するために、平成26年11月に下記の3点を柱とした「改正地域公共交通活性化再生法」が施行されました。

- ① 地方公共団体が中心となり関係者と連携して取り組む。
- ② まちづくりや観光戦略など関連施策と連携する。
- ③ 面的に地域公共交通ネットワークを再構築する。

○県における交通政策

県においては、市町村に対して廃止路線代替バスに係る経費の一部を財政力指数や乗車密度、収支率及び運行範囲に応じて補助し、地域公共交通の運行を支援してきま

したが、国の「改正地域公共交通活性化再生法」に基づき、バス交通路線再編の促進やバス事業者及び市町村のバス路線収支改善を促すため、平成 29 年 2 月に「新潟県生活交通確保対策補助金交付要綱」を改正しました。

また、県内高速バス路線の減便・廃線の動きを受け、平成 28 年 7 月に「県内高速バス支援あり方検討会」が設置され、生活路線として重要であることを基本とし、県内高速バス路線への支援策として全国で唯一となる「路線廃止に伴う新規取組支援事業」と「持続可能が見込まれる路線への運行費支援事業」を実施しています。

(3) 主要道路・施設

当市の生活交通に深く関わっている主要幹線道路には、関越自動車道をはじめ国道 17 号、117 号、291 号、351 号、403 号があり、市内の縦横の軸となっています。これらを基軸として市街地の中心部から放射線状に主要地方道、一般県道が伸び、隣接市のほか市内各地区を結ぶ重要な役割を担っています。また、当市の中央を信濃川が縦断しており、旭橋、小千谷大橋、山本山大橋など、東西を結ぶ橋は重要な幹線として位置付けられています。

国道 117 号は、千谷川から千谷工業団地を經由し、国道 17 号（小千谷大橋）へと接続する千谷バイパスが平成 28 年 11 月に開通するなど、交通体系の整備が進展しています。

市の中心部には、市役所をはじめとした公共施設、医療施設、商業施設、観光施設があり、中心部の西側には総合福祉センター「サンラックおぢや」、総合体育館等があります。東小千谷地区の国道 351 号沿いには、中越大地震以後、地域に無くなっていた大規模小売店が平成 22 年 7 月に出店しました。また、地域間交流センター「湯どころ・ちぢみの里」の日帰り温泉施設があり、市民の憩いの場として、近隣市からの利用者も多くあります。

平成 29 年 4 月に、新たに小千谷総合病院が平沢地内に開院し、今後は、旧小千谷総合病院跡地を活用した新施設建設や旧魚沼病院の健康・子育て関連施設としての活用が予定されています。



(4) 鉄道の現状と課題

○鉄道の現状

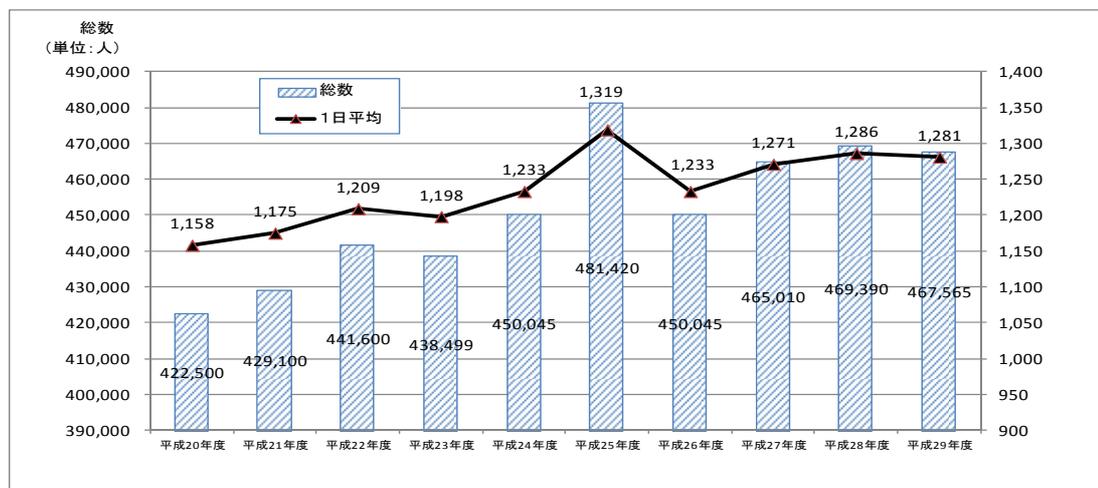
JR 上越線小千谷駅は、東小千谷地区の国道 291 号沿いにあり、本市における鉄道の玄関口として重要な役割を担っています。1 日当たりの平均乗車人員は平成 20 年度（1,158 人/日）以降、年々増加傾向にあり、平成 29 年度は 1,281 人/日となっています（図表 7）。

また、越後川口駅から長野県飯山市を結ぶ JR 飯山線が川井・岩沢地区を運行しており、内ヶ巻駅と越後岩沢駅があります。各駅の 1 日当たりの乗車人員は、いずれも減少傾向となっていますが、通学や通勤等の生活路線として利用されており、本市も沿線自治体等で構成する「飯山線沿線活性化協議会」に加盟し、事業連携による沿線地域の振興や利用促進を図っています。

平成 30 年 4 月現在の 1 日当たりの運行便数は上越線で上下 36 本、飯山線で上下 20 本が運行されています。

鉄道利用者の利便性の向上を図るため、小千谷駅には隣接地に駐車場及び駐輪場が整備されています。また、越後岩沢駅前にも駐輪場が整備されており、平成 28 年度には公衆トイレを新設するなど利用促進に努めています。

図表 7 小千谷駅鉄道乗客数



資料：小千谷市統計書

○鉄道の課題

鉄道は、上越線や上越新幹線により主に長岡・新潟・東京方面に、飯山線により十日町・長野方面に連絡し利便性を得ています。

小千谷駅利用者は増加傾向ですが、本市の玄関口として市民がより利用しやすく、また県内外あるいはインバウンドの観光客等多くの方から利用していただくために、観光分野と連携し、現在の運行便数の維持や上越新幹線とのスムーズな接続を確保することが必要です。

(5) 路線バスの現状と課題

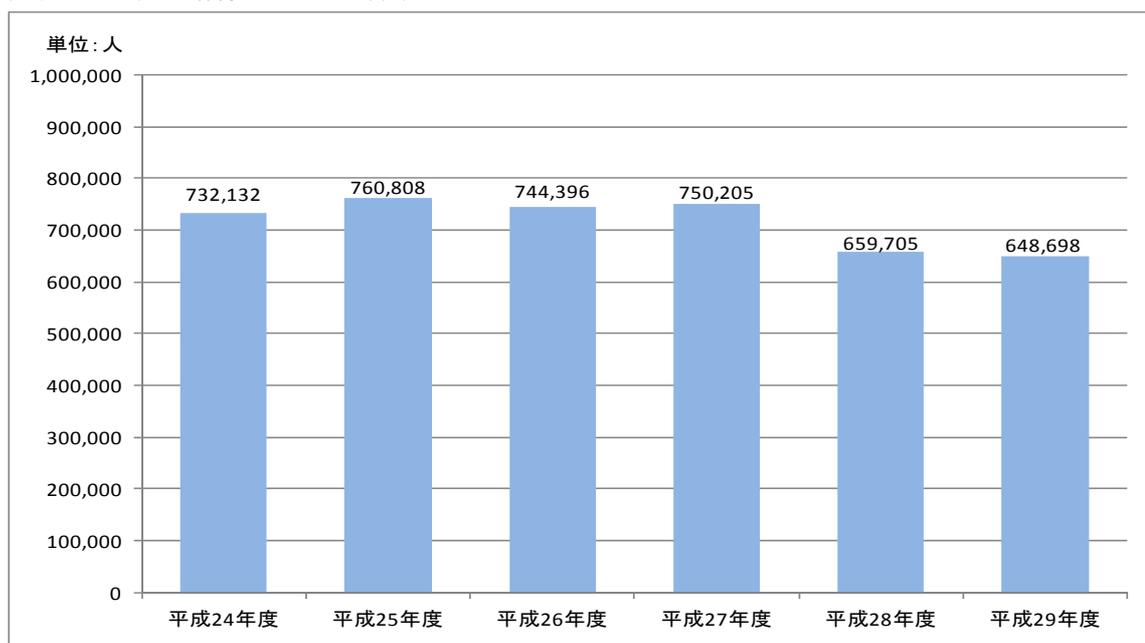
○利用者の現状と課題

当市と近隣市を結ぶ路線バスは、平成 29 年 10 月の越後交通(株)と北越後観光バス(株)の統合により、現在は越後交通(株)と南越後観光バス(株)の 2 社が、幹線道路を中心に 11 の運行系統により運行しています。

路線バスの利用者は、平成 24 年度 (732,132 人) から平成 27 年度までは、ほぼ横ばいで推移していましたが、平成 28 年度は 659,705 人、平成 29 年度には 648,698 人まで減少しました (図表 8)。路線によっては、通学利用の学生数の増減はあるものの、基本的にはどの路線も減少傾向にあります。特に減少が大きかった「小千谷ー若柵線」が平成 28 年度末で廃止となったほか、「小千谷ー三仏生ー長岡線」及び「小千谷ー川井ー南小中学校線」の減少が大きく、路線の維持のために早急な検討が必要です。

今後も、すべての系統において、利用者の視点と利用実態を踏まえたダイヤ改正や効率的な運行に向けた検討が必要です。

図表 8 市内路線バス利用者数



資料：越後交通株式会社・南越後観光バス株式会社

○路線バス運行の状況

当市の路線バスの運行の状況は次のとおりであり、すべての路線が国・県・市のいずれかの支援を受けて運行が維持されています。(平成 30 年 4 月 1 日現在)

- ① 国県補助：地域間幹線系統 (道路運送法第 4 条許可)・・・ 7 路線
(※うち低収益路線 4 路線)
- ② 県単補助：廃止路線代替バス (道路運送法旧第 21 条許可)・・・ 2 路線
- ③ 市単補助：過疎地域路線バス (道路運送法第 4 条許可)・・・ 1 路線
- ④ 国フィーダー補助：循環バス ()・・・ 1 路線

○地域間幹線系統（道路運送法第4条許可）

平成30年4月現在、7路線が国庫補助対象路線の地域間幹線系統として運行していますが、そのうち4路線が「低収益路線（※4）」となっています。

「小千谷－三仏生－長岡線」は、利用者の減少に伴い、ダイヤ改正等による運行方法の見直しや収支改善を実施してきましたが、国庫補助要件を満たすことができず、平成29年10月からは県単補助路線として運行しています。

また、低収益路線となっている4路線のうち「小千谷－川西－十日町線」は、高等学校の閉校等による利用者の減少もあり、低収益額が増加し当市の負担額が非常に大きくなっています。

他の低収益路線を含めた、地域間幹線系統の維持確保のために、今後も運行事業者と連携し、利用実態に合わせた運行時刻の調整などを行う必要があります。

（※4）「低収益路線」とは、経常費用の11/20以上の経常収益がない路線で、その経常費用の11/20に満たない差額を市町村で負担することにより、国庫補助対象路線となり運行するバスをいう。

○廃止路線代替バス（道路運送法旧第21条許可）

営業路線として廃止されたバス路線や国庫補助要件から外れた路線を引き継ぎ、県と関係市で補助金を交付して路線を維持している廃止路線代替バスは、「小千谷－川井－南小中学校線」と「小千谷－三仏生－長岡線」の2系統があります。

そのうち、「小千谷－川井－南小中学校線」の乗車密度が0.9人に低下したことで、県単補助要件（2.0人）を満たせず市単補助となりました。それにより、当市の負担額が大幅に増加することとなったため、平成31年4月以降の運行については、その利用実態を考慮しながら、バス路線廃止及びバス以外の代替交通も含め、運行事業者及び沿線地域との検討・協議を進めています。

また、「小千谷－三仏生－長岡線」は県単補助路線として運行していましたが、利用者の減少が続く中で、運行事業者から地域間運行廃止の申出を受け、平成31年4月からは、小千谷車庫～五辺（池津）間の折り返しによる市域内運行を予定しています。現在の平均乗車密度が県補助基準を下回るため、当初は市単補助による運行となりますが、次年度実績による県単補助の対象となるよう、利便性向上による利用者増加に向けた取り組みを進める必要があります。

なお、2路線ともに通学の中学生が混乗していることから、教育委員会と連携して、スクールバスの運行方法等について検討する必要があります。

○過疎地域路線バス（道路運送法第4条許可）

中山間地域と市街地を結ぶ生活交通を確保するため、市単独事業として過疎地域路線バス「小千谷－吉谷－若栃線」「小千谷－浦柄－岩間木－塩谷線」の2路線を運行していましたが、若栃線の利用者の減少に伴い、平成29年3月末で廃止となりました。現在は、代替交通として、北山－若栃間を運行していた乗合タクシーを吉谷～本町～小千谷駅～小千谷総合病院まで延伸し、運行しています。

当該系統は「小千谷―浦柄―岩間木―塩谷線」の1系統のみとなっていますが、小千谷総合病院へ延伸・乗入れし、通院における交通手段を確保しています。高校生の人数により利用者数の増減は見られますが、重要な生活交通手段として今後も路線を維持できるように、運行事業者や地域と連携して効率的な方法を協議していく必要があります。

○シャトルバス→循環バス（道路運送法第4条許可）

平成10年から地域間交流センター「湯どころ・ちぢみの里」と総合福祉センター「サンラックおぢや」及びその間にある公共施設や医療施設を結ぶ循環バスの運行を開始しましたが、利用が伸びなかったため、平成16年度からは経路を変更してシャトルバスとして運行してきました。

通学利用の生徒数の影響が大きいため、年度によっては乗車人員及び乗車密度が大幅に増減していました。また、市内の大型ショッピングセンターが運行していた曜日限定無料バスがほぼ同様の経路を走っており、その影響も推測されます。

平成29年4月からは、小千谷総合病院の開院を契機とした路線再編に伴い、シャトルバスから循環バスへ再度移行しました。

○循環バス（道路運送法第4条許可）

平成29年4月の小千谷総合病院の開院を契機とした路線再編に伴い、上記シャトルバスの運行路線を見直し、病院を発着地として市街地から今まで公共交通空白地区で、医療機関が存置している国道117号バイパス沿線の郊外住宅地である若葉～西中～（山本山大橋）～信濃町～元中子を経由する路線に再編、内・外回り各6便の計12便で運行を開始しました。運行費については「小千谷市地域内フィーダー系統確保維持計画（※5）」を策定し、運行費に国の補助金を活用しています。

公共施設や病院を結び、郊外の公共交通空白域を解消するとともに、ハブ停留所となっている本町中央へ接続する幹線バス路線同士を結んでいます。

運行開始直後は、新しい路線に戸惑いの声がありましたが、小千谷総合病院への通院や通勤通学の手段として定着してきました。さらなる効率化のため、平成30年4月1日に運行便数を内・外回り各4便の計8便、土日祝日は計6便とし利用実態に合わせたダイヤ改正を実施しました。

今後も利用実態を把握することにより、利便性の向上と効率的な運行を確保することが重要です。

（※5）「フィーダー系統」とは、幹線バス系統や鉄道等の地域間交通ネットワークにバス停留所や駅で接続し、乗り継ぐことができるように地域内を運行するバス交通やデマンド交通等をいう。

○高速バス

平成 30 年 10 月現在、関越自動車道小千谷インターチェンジでは、「十日町-新潟線」が上下 4 本/日、「新潟-東京線」（東京方面のみ）が上下 34 本/日（女性専用便 2 本含む）が運行され、片貝停留所では、「十日町-新潟線」のみが運行されています。

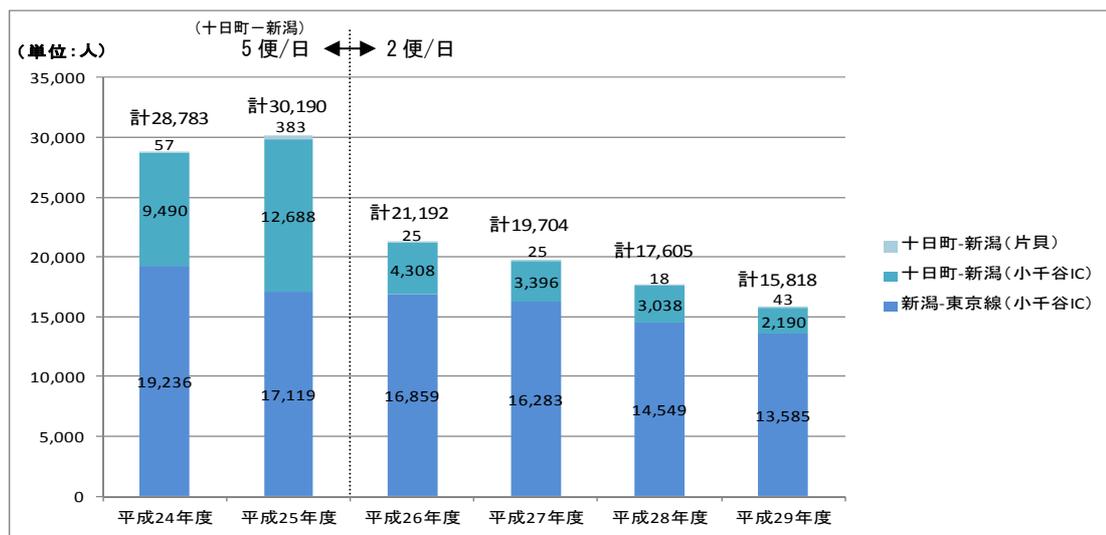
高速バスの年間利用者数は、平成 24 年度の約 29,000 人から平成 29 年度に約 16,000 人まで減少しました。特に十日町-新潟線は、平成 26 年 4 月に上下 10 本/日から上下 4 本/日に減便となったことから利用者数が大幅に減少し、運行事業者の運転手不足も要因となり、平成 29 年 10 月末に路線廃止の申出（平成 30 年 9 月末）がありました。当市では、路線存続のため県及び沿線自治体と連携した支援策の検討により、新たな運行事業者が路線を引継ぎ運行しています。

高速バス「十日町-新潟線」は、当市と新潟市を乗り換えなしで結ぶ唯一の路線であり、都市間交通としてだけでなく、県立病院への通院などにおける生活路線としても重要な路線で、市民からも路線の維持存続が望まれています。

「新潟-東京線」については、当市と東京を乗り換えなしの約 4 時間で結ぶ路線であり、上京や帰省、出張、旅行、観光などで利用されています。その乗降場所となっている小千谷インターチェンジは、以前からパーク&ライド（乗り継ぎ）に対応する駐車場整備の要望が寄せられていました。関係機関への長年の交渉が実り、高速バス乗り場から徒歩約 2 分の高速道路敷地内に 39 台の駐車場を整備し、平成 30 年 12 月 1 日に供用を開始しました。

小千谷インターチェンジ駐車場の整備により、高速バス利用者の利便性が高まったことから、今後利用者数が増加することが期待されます。今後は、駐車場の除雪を含めた維持管理が課題となります。

図表 9 高速バス利用者



資料：越後交通株式会社

小千谷インターチェンジ駐車場



○その他

高齢者ドライバーによる交通事故の多発が社会問題化し、自動車運転免許証の自主返納が増加傾向にある一方、地方においてマイカーは生活移動手段として大変重要なものとなっています。可能な限り運転は続けたいという意思はあるものの、将来的に運転出来なくなった際の移動手段として公共交通の維持確保を望む声が聞かれます。

路線バスの利用者数は年々減少を続ける中で、運転手不足等の要因もあり、長年公共交通を支えてきたバス運行事業者は行政による補助金だけでは路線維持が難しく、赤字額の大きい路線は整理対象として廃止の検討をせざるを得ない状況になっています。減便や時刻調整によるダイヤ改正は、さらなる利便性の低下につながる場合が多く、負のスパイラルとなってしまいます。

このような状況は、過疎地域路線バスのみではなく、幹線系統や高速バスも同様であり、公共交通を維持確保していくためには、運行事業者と行政だけではなく、地域の課題として捉え、現在の運行状況を共有したうえで、地域とともに検討していくことが重要です。

(6) その他の乗合輸送手段の現状と課題

○コミュニティバス

平成 16 年 10 月から、岩沢地区の生活交通空白地域（岩山・池ノ又・外之沢）の生活交通を確保するため、当市所有の車両を地域協議会に貸与し、地域運営によるコミュニティバスの運行を実施しています。（※6）

また、空いている時間は、地域活動として地域のコミュニティ活動等にも利用しています。本来の目的である、生活交通としての利用者は減少していますが、その半面地域活動での利用は増加しています。

このような現状を踏まえ、本来の目的である生活交通確保のためのコミュニティバスの運行について、運行地域の高齢化及び人口減少、また、運転手確保等の課題も含め、地域協議会との定期的かつ継続した協議を進める必要があります。

さらに、生活交通空白地域や路線バスが廃止となる際は、生活交通を確保する 1 つの手段としてコミュニティバスの導入を地域団体等と協議・検討する必要があります。

（※6）「岩沢地区コミュニティバス」は、公共交通空白地域における生活交通確保及び地域住民の利便性向上を目的に、市が地域へ車両を貸与し、岩沢地域住民が自ら運行管理する方法により行っています。

○乗合タクシー（※7）

現在は、「池の平線」と「北山線」の 2 路線が運行しています。

「池の平線」については、路線バス「小千谷ー池の平線（過疎地域路線バス）」の廃止に伴う代替交通として、平成 21 年度から運行しています。また、「北山線」については、平成 21 年 11 月から路線バス「若柘線」への接続のために運行していましたが、平成 29 年 3 月末に路線バス「若柘線」が廃止となったことを受けて、北山～若柘～吉谷～市街地まで延伸しました。

また、平成 29 年 4 月の小千谷総合病院開院に伴う公共交通の路線再編に合わせ、乗合タクシー 2 路線も、病院へ延伸しました。

「池の平線」は 1 日 3 往復が運行していますが、通学手段として南中学校の生徒が利用しているため、平日は全便定期運行し、土日祝日のみ予約制（デマンド型）となっています。「北山線」は 1 日 2.5 往復のうち定期運行は平日朝の 1 便のみであり、他は全て予約制となっていますが、平成 30 年 4 月からは芹久保へ予約制で延伸するなど、地域の状況に応じた運行を行っています。（図表 10 参照）

路線バスが廃止となった地域の代替交通として、バス運賃に準じた料金を設定し、利用者の負担を軽減した運行をしていますが、その分、運行には多額の経費がかかっています。「北山線」については、空運行を減らし無駄な運行経費を軽減するため、平日についても予約制を導入しています。予約や運行の方法など、利用者からの理解が必要となるため、2 路線ともに毎年沿線地域住民との運行状況に関する意見交換会を開催し、協議を行っています。

「廃止路線代替バス」の項目でも触れたとおり、川井地区においては路線バスに替わる公共交通の検討が必要となっています。地域住民の生活交通を確保するため、地

域運行管理による交通手段や乗合タクシー「池の平線」の再編等、スクールバス利用者の通学手段も含めて地域とともに検討を進めています。

乗合タクシーについては、少子高齢化により年々状況が変わる地域の実情に合わせて、より効果的かつ効率的な運行方法や運行経路の検討が必要であり、予約方法については、運行事業者や地域とともに協議を進めていく必要があります。

(※7)「乗合タクシー」とは、バス路線や有効な交通手段を確保できない地域において、通勤・通院、買い物などの日常生活における移動のため、タクシーで周辺地域の利用者を乗り合わせて輸送するもの。乗車定員は、10人以下となる。

図表 10 乗合タクシー運行内容（平成 30 年 4 月現在）

路線名	池の平線	北山線
区 間	池の平～大崩～戸屋～冬井～ ～（南小中学校）～市街地	真人北部地区～吉谷地区～ 市街地
便 数	3 往復（朝昼夕）	2.5 往復（朝昼夕） ※朝は市街地方面へ片道のみ
運行形態	平日：定期運行 土日休日：予約制	平日朝便のみ定期運行 他は土日休日含め予約制 ※北山及び芹久保は全て予約制
乗車定員	9 人	9 人
運行事業者	小千谷ハイヤー協会（小千谷タクシー・中央タクシー）	



○スクールバス

小・中学校の児童生徒の通学送迎用として、小学校 5 校、中学校 3 校へのスクールバスを直営又は委託方式で運行しています。現在、小学校では 8 路線 160 人、中学校では 6 路線 87 人の児童生徒の送迎を行っています。年々児童生徒数は減少し、バスの乗車人数も減っていますが、運行路線数は 5 年前の平成 25 年度と同数です。

また、路線バスや乗合タクシーの定期券を通学用に支給し、小学校 2 校、中学校 3 校が利用しています。小学校では路線バス 2 路線に 8 人、中学校では路線バス 4 路線

と乗合タクシー1路線に計39人が利用しています。

路線バスの利用が減少している中で、生活交通のみではなく、通学やスクールバスとの混乗も含め、教育委員会と連携しながら今後の運行方法について総合的に検討していく必要があります。

○その他

人口減少や少子高齢化により、路線バスの利用者が減少する中で、大型バスによる大量輸送の必要性は低下し、地域の実情に合わせた効率的な運行の必要性が高まっています。

中山間地域のみではなく、市街地郊外を運行する路線バスにおいても、減便や時刻調整などのダイヤ改正だけでは、利便性が低下し利用者は減る一方であり、路線維持の危機を迎えています。運行事業者とともに沿線地域との路線維持に向けた検討を行っているものの、利用促進の有効策はなかなか見出せない状況です。

また、路線バスが廃線となる場合の代替交通として、岩沢地区を参考にした運行形態によるコミュニティバスを地域へ提案しても、運転手確保や予約管理などの運行管理体制を整えることが難しいといった理由から実施には至らず、乗合タクシーに移行しているのが現状です。

全国の自治体では、乗合タクシーやコミュニティバス、デマンド交通など様々な運行方法が行われています。また、国もライドシェアや自家用有償運行などの規制緩和の検討を進めています。路線バス廃止代替や公共交通空白地域の解消については、国の動向を注視しつつ、他の自治体の例を参考にしながら、利用目的に応じ地域の実情に合った運行方法の検討が必要です。

市街地においては、平成29年4月の小千谷総合病院開院に伴い、大幅な路線再編を行いました。多くの路線が新病院に乗り入れ、循環バスが運行を開始したことで、病院へのアクセス確保と市街地郊外における公共交通空白地域の一部が解消されました。

循環バスについては、運行後の実績をもとに平成30年4月に時刻調整と減便を実施して効率化を図りましたが、今後も引き続き運行状況を把握するとともに、利用実態の変化に合わせて効率的に運行していく必要があります。

今後予定される旧小千谷総合病院の跡地活用は、図書館を核とした複合施設の建設が計画されており、生活交通の拠点としてすべてのバス路線が停車する本町地内における人の流れに変化をもたらすことが予想されます。まちづくりや中心市街地活性化につながるように関係機関と情報を共有し、総合的に検討していく必要があります。

第2章 生活交通確保の基本的な方針及び方策

当市も人口減少が続いていますが、自動車保有車数は横ばいであり、生活において自家用車が重要な移動手段となっています。しかし、今後は、車を運転できない高齢者の増加が推測され、障がい者や学生などにとっても、公共交通機関は通院、通学、買い物など、生活をしていく上で、今まで以上に重要なものと位置付けられます。

このため、鉄道やバスにおける路線の維持・確保に加え、高齢者などへの配慮及び地域の実情に応じた運行形態を検討し、生活交通の確保を図ります。

1. 近隣市を結ぶ生活交通の確保

鉄道や路線バス及び高速バスは、地域間や都市間を結ぶ幹線系統として重要な交通手段であることに加え、通院等における生活交通としても不可欠な交通手段であることから、路線の維持・確保と利用環境の整備を図ります。

- ① 鉄道の現行便数を確保し、路線バスから鉄道への乗り継ぎ及び上越新幹線とのスムーズな接続等の利用環境の向上を図ります。
- ② 鉄道利用者の利便性向上のため、小千谷駅駐車場の除雪対策等を検討します。また、小千谷駅及び越後岩沢駅前の駐輪場については、放置自転車対策を含めた環境整備を進めます。
- ③ 広域的・幹線的路線バス（※8）については、沿線自治体と連携し、利用者のニーズに合った運行時刻の設定や運行方法の改善をバス事業者に働きかけ、国庫補助対象の基準である運送量15人/日以上を確保することにより、継続的な運行の確保に努めます。
- ④ 低収益路線バスについては、バス事業者へ収益改善を働きかけるとともに、市が財政的支援を行うことにより、路線の存続を図ります。
- ⑤ 高齢化の進展により、バス事業者へノンステップバスのさらなる導入促進を働きかけます。
- ⑥ 高速バス利用促進のため、小千谷インターチェンジ駐車場を適切に維持管理するとともに、運行事業者と連携し、利用者数及び運行本数を確保することにより、利便性の維持、向上に努めます。また、県内高速バス「十日町-新潟線」は、生活交通に位置付け、県及び沿線自治体と連携し路線の維持・確保を図ります。

（※8）「広域的・幹線的路線バス」とは、広域的路線（複数市町村にまたがる路線で路線長が10キロメートル以上のもの）又は、幹線的路線（1日の運送量が15～150人、1日の運行回数が3回以上、広域行政圏の中心市である長岡市や十日町市及び魚沼市等に接続するもの）をいう。

2. 市内における生活交通の確保

市街地とその周辺地域を結ぶ生活交通の確保を図ります。

また、路線バス利用者が減少し、路線バス等が運行できなくなるときは、代替交通手段について地元町内会等と検討し、生活交通の確保を図ります。

- ① 市街地とその周辺地域を結ぶ既存のバス路線は、最低1日3往復を確保することを基本とします。
- ② 路線バスの運行を維持するため、バス事業者や関係機関等と連携し、通勤や通学における鉄道との乗り継ぎにおける利便性の向上や、通院、買い物などの利用実態に合わせたダイヤ改正や運行方法の見直しを検討します。
- ③ 高齢化の進展により、バス事業者へノンステップバスのさらなる導入促進を働きかけます。
- ④ 廃止路線代替バス路線は、県単補助路線として運行できるように運行事業者及び沿線町内会等と連携し、利用促進に取り組みます。
- ⑤ 循環バスは、地域内フィーダー系統確保維持計画に基づき国庫補助を活用して運行します。また、運行事業者と連携し利用状況の把握と分析を行い、利用実態に合わせたダイヤ改正や利用促進策を検討します。
- ⑥ 収益の悪化により、路線バスが運行できなくなるときは、代替交通手段について、沿線町内会や運行事業者等と協議し、通院・通学等の利便性を考慮した生活交通の確保に取り組みます。
- ⑦ 乗合タクシーの運行は、定期的に沿線町内会と協議し、利用実態に合わせたダイヤ改正等を検討することで、効率運行を目指します。
- ⑧ 生活交通確保のため岩沢地区で運行しているコミュニティバスは、他の地区との共同運行を含めた検討を行い、有効利用を図ります。
- ⑨ 生活交通空白地域については、地元町内会や関係団体、運行事業者等と協議を行うことで、地域の実情に合った運行方法を検討します。
- ⑩ 旧小千谷総合病院跡地では、図書館を核とした複合施設建設が予定されており、新たな人の流れとにぎわいの創出が見込まれます。隣接する本町中央バス停は、全バス路線が停車するハブ（中心）であり、その複合施設にバス待合所を兼ねたスペースの設置を検討するなど、一層の利便性向上に努めます。
- ⑪ 国の政策動向を注視し、デマンド型交通や自家用有償運行など多様な運行形態を視野に入れ、スクールバス路線との連携や先進事例を研究するなど、幅広い視点を持ちながら柔軟な運行方法の導入を検討します。

資料編

- 人口の推移 19
- 年齢別人口比率 19
- 高齢化率の推移 20
- 高齢者世帯数の推移 20
- 普通自動車運転免許所持者数の推移 21
- 鉄道利用者数（小千谷駅） 21
- 路線別バス利用者数 22～23
- 路線別バス収益状況 24～27
- 高速バス利用状況 28
- 岩沢地区コミュニティバス運行状況 29
- 乗合タクシー運行状況 30
- スクールバス運行状況・定期券発行状況 31
- 小千谷市公共交通マップ（平成30年4月1日改正版） . 32
- 計画策定の経過 33
- 策定委員会等名簿 34

□ 人口の推移

各年3月31日現在(単位:人)

	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	増減率% (H30/25)
西小千谷地区	8,025	7,320	6,773	6,356	△6.2
東小千谷地区	7,019	6,716	6,795	6,293	△7.4
横浦地区	427	331	平成22年度、東小千谷地区へ編入		—
山辺地区	2,119	1,931	1,561	1,458	△6.6
吉谷地区	1,431	1,262	1,343	1,236	△8.0
城川地区	8,158	8,670	9,062	8,904	△1.7
千田地区	3,784	4,249	4,053	3,921	△3.3
川井地区	697	635	562	488	△13.2
東山地区	1,168	596	540	483	△10.6
岩沢地区	1,147	1,008	893	752	△15.8
真人地区	1,731	1,509	1,354	1,149	△15.1
片貝地区	5,869	5,686	5,362	4,955	△7.6
合計	41,575	39,913	38,298	35,995	△6.0

資料:住民基本台帳

□ 年齢別人口比率

各年3月31日現在(単位:人)

区分	平成15年		平成20年		平成25年		平成30年		構成比比較 (H30/25)	
	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)		
年齢階層	0歳~14歳	5,710	13.7	5,252	13.2	4,745	12.4	4,169	11.6	△0.8
	15歳~64歳	25,613	61.6	24,000	60.1	22,513	58.8	19,914	55.3	△3.5
	65歳~	10,252	24.7	10,661	26.7	11,040	28.8	11,912	33.1	4.3
合計	41,575	100.0	39,913	100.0	38,298	100.0	35,995	100.0	—	

資料:住民基本台帳

□ 高齢化率の推移

各年4月1日現在

年次	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	2023年 (推計値)
総人口(人)	38,298	37,836	37,471	36,957	36,454	35,995	33,159
高齢者人口 (65歳以上)(人)	11,040	11,301	11,580	11,758	11,836	11,912	11,772
高齢化率(%)	28.8	29.9	30.9	31.8	32.5	33.1	35.5

資料:小千谷の社会福祉

※2023年推計値:小千谷市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画

□ 高齢者世帯数の推移

各年4月1日現在

年次	全世帯数 (A)	高齢者世帯計		高齢者単身世帯		高齢者のみの世帯		高齢者と児童のみの世帯		高齢者と障がい者のみの世帯	
		世帯数 (B)	比率 (B/A)	世帯数 (C)	比率 (C/A)	世帯数 (D)	比率 (D/A)	世帯数 (E)	比率 (E/A)	世帯数 (F)	比率 (F/A)
平成25年	12,743	2,020	15.9	891	7.0	1,126	8.8	3	0.02	-	-
平成26年	12,691	2,026	16.0	854	6.7	1,156	9.1	1	0.01	12	0.09
平成27年	12,750	2,160	16.9	938	7.4	1,206	9.5	0	0	16	0.13
平成28年	12,743	2,277	17.9	1,018	8.0	1,244	9.8	0	0	15	0.12
平成29年	12,723	2,408	18.9	1,092	8.6	1,301	10.2	0	0	15	0.12
平成30年	12,744	2,447	19.2	1,121	8.8	1,312	10.3	0	0	14	0.11

資料:小千谷の社会福祉 2018年版

□ 普通自動車運転免許所持者数の推移

単位:人

年次	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
所持者数 (12月末現在)	25,570	25,401	25,291	25,184	24,970	23,765
自主返納者数	14(川口含む) (H25.1~H25.12)	24(川口含む) (H26.1~H26.12)	19 (H27.4~H28.3)	39 (H28.4~H29.3)	79 (H29.4~H30.3)	82 (H30.4~H30.12)

資料:小千谷警察署

※普通自動車を運転できる大型、中型、準中型、普通免許の所持者数

□ 鉄道利用者数（小千谷駅）

(単位:人)

年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
利用者数	422,500	429,100	441,600	438,499	450,045	
(1日平均)	1,158	1,175	1,209	1,198	1,233	
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	比較 (H24/29)
利用者数	481,420	450,045	465,010	469,390	467,565	+17,520
(1日平均)	1,319	1,233	1,271	1,286	1,281	+48

資料:小千谷市統計書

※東日本旅客鉄道㈱が調査しHPで公開している数値であり、飯山線:越後岩沢駅及び内ヶ巻駅については、現在乗降客数調査を行っていません。

□ 路線別バス利用者数

(単位 平均運行回数:回 乗車密度・乗車人員:人)

越後交通株式会社									
	長岡～小千谷～十日町線			小千谷インター～長岡駅前線			小千谷車庫前～片貝(小栗田経由)～長岡駅前線		
	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員
平成24年度	10.4	7.6	191,000	8.8	4.4	67,000	12.9	5.6	144,000
平成25年度	10.3	6.8	167,096	7.6	4.1	56,222	12.0	5.7	142,385
平成26年度	10.1	6.8	182,307	6.6	4.9	55,341	11.1	5.8	142,576
平成27年度	9.9	7.1	196,769	5.6	5.1	47,788	11.1	6.3	157,745
平成28年度	9.4	6.0	174,108	4.8	4.5	36,795	10.9	5.8	142,488
平成29年度	8.8	6.6	162,688	4.3	5.1	36,471	10.7	7.3	153,062
比較(H24/29)	△ 1.6	△ 1.0	△ 28,312	△ 4.5	0.7	△ 30,529	△ 2.2	1.7	9,062
	小千谷車庫前～片貝(坪野経由)～長岡駅前線			小千谷車庫前～三仏生～長岡駅前線			小千谷車庫前～五辺線		
	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員
平成24年度	3.8	5.6	44,000	3.3	5.0	31,000	2.1	2.2	8,000
平成25年度	3.8	5.9	48,883	3.3	4.8	33,342	1.7	2.5	7,372
平成26年度	3.9	5.4	48,691	3.3	5.2	31,432	1.2	2.5	4,957
平成27年度	3.9	5.7	52,160	3.2	4.5	28,146	0.8	3.1	4,190
平成28年度	3.9	5.1	48,260	3.2	3.9	25,405	0.6	2.4	2,455
平成29年度	3.9	5.6	51,028	3.2	2.7	18,470			
比較(H24/29)	0.1	0.0	7,028	△ 0.1	△ 2.3	△ 12,530	△ 2.1	△ 2.2	△ 5,545

資料:越後交通株式会社

北越後観光バス株式会社→H29.10～越後交通株式会社									
	小千谷車庫前～川西～十日町線			小千谷車庫前～小国線			小千谷～川井～南小中学校線		
	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員
平成24年度	6.9	5.0	63,149	3.9	5.3	26,662	3.8	2.1	16,064
平成25年度	6.9	6.4	83,493	3.9	5.0	27,877	3.8	2.0	12,448
平成26年度	6.9	5.1	71,660	3.9	5.0	28,404	3.8	2.0	14,146
平成27年度	6.9	5.0	67,421	3.9	5.1	28,668	3.8	2.0	11,771
平成28年度	6.9	4.7	64,307	3.9	4.8	26,528	3.8	2.0	9,776
平成29年度	6.9	4.0	66,290	3.9	4.8	24,404	3.8	2.1	8,072
比較(H24/29)	0.0	△ 1.0	3,141	0.0	△ 0.5	△ 2,258	0.0	0.0	△ 7,992

資料:北越後観光バス株式会社、越後交通株式会社

北越後観光バス株式会社→H29.10～越後交通株式会社									
	小千谷車庫前～吉谷～若栃線			小千谷～浦柄～岩間木～塩谷線			シャトルバス (サンラックおぢや～ちぢみの里線)		
	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員
平成24年度	2.8	0.9	4,714	4.8	1.6	11,291	3.5	1.6	7,782
平成25年度	2.4	1.7	9,582	4.8	3.0	16,637	3.5	3.1	17,477
平成26年度	2.4	1.0	3,762	4.8	2.8	15,325	3.5	4.2	19,481
平成27年度	2.4	0.7	3,501	4.7	2.5	13,913	3.5	3.6	11,422
平成28年度	2.4	0.7	3,229	4.8	1.9	12,898	3.5	1.6	9,898
平成29年度	廃止→乗合タクシーへ移行			4.3	2.6	14,759	循環バスへ移行		
比較(H24/29)	△ 0.4	△ 0.2	△ 1,485	△ 0.5	1.0	3,468	0.0	0.0	2,116
	循環バス(内回り・外回り) ※H29.4.1～H29.9.30実績								
	平均運行回数 (1日運行回数)	輸送人員 (人/回)	乗車人員						
平成24年度									
平成25年度									
平成26年度									
平成27年度									
平成28年度									
平成29年度	12.0	6.8	15,110						
比較(H24/29)	12.0	6.8	15,110						

資料：北越後観光バス株式会社、越後交通株式会社

南越後観光バス株式会社			
	小千谷～川口～小出線		
	平均運行回数 (1日運行回数)	乗車密度	乗車人員
平成24年度	9.9	5.1	117,470
平成25年度	9.9	5.3	137,994
平成26年度	9.9	4.8	126,314
平成27年度	9.9	4.9	126,711
平成28年度	9.5	5.0	103,558
平成29年度	9.5	4.9	98,344
比較(H24/29)	△0.4	△0.2	△19,126

資料：南越後観光バス株式会社

乗車人員比較

平成24年度合計	732,132
----------	----------------

—

平成29年度合計	649,170
----------	----------------

=

△82,962

※H28五辺線及びH28若栃線、
H28シャトルバスを含む。
※循環線は含まない。

11.3 %減少

□ 路線別バス収益状況（補助対象区間）

（単位 乗車密度:人 左記以外:円）

補助金内容／バス路線		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	収益比較 (H24/29)	
(国庫)バス運行対策費補助金(低収益路線)									
① 十日町～ 小千谷～ 長岡駅前 線	乗車密度(人)	7.6	6.8	6.8	7.1	6.0	6.6	△1.0	
	差額(B)-(A)	△35,350,740	△48,882,555	△49,212,982	△49,902,425	△55,584,511	△52,013,298	△16,662,558	
	経常費用(A)	108,595,242	110,410,214	109,448,589	107,137,439	106,041,932	102,398,819		
	収入 内訳	経常収益(B)	73,244,502	61,527,659	60,235,607	57,235,014	50,457,421	50,385,521	
		国・県補助金	31,530,000	40,843,000	33,692,000	48,211,000	46,775,000	39,321,800	
		市補助金	0	0	0	674,832	147,991	0	
		(長岡)市補助金	0	0	0	493,822	108,295	0	
		(十日町)市補助金	0	0	0	521,923	111,378	0	
事業者負担		3,820,740	8,039,555	15,520,982	848	8,441,847	12,691,498		
② 小千谷イ ンター～ 長岡駅前 線	乗車密度(人)	4.4	4.1	4.9	5.1	4.5	5.1	0.7	
	差額(B)-(A)	△17,199,955	△17,116,136	△12,416,105	△14,455,945	△11,144,115	△9,118,253	8,081,702	
	経常費用(A)	37,524,650	33,693,393	29,450,073	25,254,963	22,639,045	20,680,517		
	収入 内訳	経常収益(B)	20,324,695	16,577,257	17,033,968	10,799,018	11,494,930	11,562,264	
		国・県補助金	8,792,000	9,517,800	9,693,000	8,117,000	7,715,200	7,564,000	
		市補助金	0	0	749,235	1,081,924	0	0	
		(長岡)市補助金	0	0	1,391,437	2,009,288	0	0	
		事業者負担	8,407,955	7,598,336	582,433	3,247,733	3,428,915	1,554,253	
③ 小千谷車 庫前～片 貝(小栗 田経由) ～長岡駅 前線		乗車密度(人)	5.6	5.7	5.8	6.3	5.8	7.3	1.7
	差額(B)-(A)	△30,155,566	△29,386,469	△28,118,706	△28,431,997	△30,997,299	△24,748,231	5,407,335	
	経常費用(A)	69,316,975	66,537,344	63,029,528	62,910,058	65,199,781	65,681,465		
	収入 内訳	経常収益(B)	39,161,409	37,150,875	34,910,822	34,478,061	34,202,482	40,933,234	
		国・県補助金	23,426,000	27,021,000	27,384,000	28,309,000	28,843,200	24,141,200	
		市補助金	0	0	262,917	54,992	1,154	0	
		(長岡)市補助金	0	0	322,619	67,479	1,416	0	
		事業者負担	6,729,566	2,365,469	149,170	526	2,151,529	607,031	
④ 小千谷車 庫前～片 貝(坪野 経由)～ 長岡駅前 線		乗車密度(人)	5.6	5.9	5.4	5.7	5.1	5.6	0.0
	差額(B)-(A)	△9,252,353	△9,471,184	△11,295,165	△10,858,437	△13,554,612	△12,938,955	△3,686,602	
	経常費用(A)	20,943,379	22,077,928	23,129,400	23,113,458	24,463,684	25,052,318		
	収入 内訳	経常収益(B)	11,691,026	12,606,744	11,834,235	12,255,021	10,909,072	12,113,363	
		国・県補助金	7,178,000	9,337,000	10,048,000	9,839,000	10,817,400	10,529,800	
		市補助金	0	0	175,242	0	473,972	147,318	
		(長岡)市補助金	0	0	204,328	0	534,885	166,248	
		事業者負担	2,074,353	134,184	867,595	1,019,437	1,728,355	2,095,589	

(単位 乗車密度:人 左記以外:円)

補助金内容／バス路線		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	収益比較 (H24/29)	
(国庫)バス運行対策費補助金(低収益路線)									
⑤ 小千谷車庫前～三仏生～長岡駅前線	乗車密度(人)	5.0	4.8	5.2	4.5	3.9	2.7	△2.3	
	差額(B)-(A)	△8,756,416	△9,868,350	△9,368,519	△9,947,640	△11,606,787	△14,330,989	△5,574,573	
	経常費用(A)	17,353,536	18,142,135	18,436,770	17,978,566	18,635,676	19,101,301		
	収入内訳	経常収益(B)	8,597,120	8,273,785	9,068,251	8,030,926	7,028,889	4,770,312	
		国・県補助金	7,099,000	7,318,000	8,010,000	7,501,000	8,248,400	7,298,200	
		市補助金	473,663	604,231	411,861	879,758	548,669	848,562	
		(長岡)市補助金	473,662	599,417	408,580	904,640	581,079	898,686	
		事業者負担	710,091	1,346,702	538,078	662,242	2,228,639	5,285,541	
⑥ 小千谷～川西～十日町線	乗車密度(人)	5.0	6.4	5.1	5.0	4.7	4.0	△1.0	
	差額(B)-(A)	△20,639,284	△21,527,756	△21,850,574	△22,416,255	△25,681,544	△34,147,908	△13,508,624	
	経常費用(A)	42,519,146	41,685,156	43,719,830	43,971,758	45,865,970	51,302,793		
	収入内訳	経常収益(B)	21,879,862	20,157,400	21,869,256	21,555,503	20,184,426	17,154,885	
		国・県補助金	19,133,000	16,311,000	19,367,000	11,389,000	19,933,000	21,223,000	
		市補助金	722,721	1,329,329	762,599	0	1,025,287	1,465,708	
		(十日町)市補助金	782,948	1,440,107	826,148	0	1,110,723	1,352,961	
		事業者負担	615	2,447,320	894,827	11,027,255	3,612,534	10,106,239	
⑦ 小千谷～小国線	乗車密度(人)	5.3	5.0	5.0	5.1	4.8	4.8	△0.5	
	差額(B)-(A)	△8,444,080	△4,108,751	△4,255,510	△4,192,700	△5,192,202	△7,422,312	1,021,768	
	経常費用(A)	12,351,675	12,485,338	13,094,754	13,170,210	13,737,585	16,080,479		
	収入内訳	経常収益(B)	3,907,595	8,376,587	8,839,244	8,977,510	8,545,383	8,658,167	
		国・県補助金	0	4,108,000	2,946,000	3,953,000	4,283,000	4,653,000	
		市補助金	0	0	0	0	0	0	
		(長岡)市補助金	5,352,000	0	0	0	0	0	
		事業者負担	3,092,080	751	1,309,510	239,700	909,202	2,769,312	
⑧ 小千谷～川口～小出線	乗車密度(人)	5.1	5.3	4.8	4.9	5.0	4.9	△0.2	
	差額(B)-(A)	△18,405,369	△21,764,201	△20,727,125	△18,949,495	△19,894,821	△21,250,203	△2,844,834	
	経常費用(A)	43,525,090	45,697,982	43,242,128	43,018,382	41,193,512	43,422,053		
	収入内訳	経常収益(B)	25,119,721	23,933,781	22,515,003	24,068,887	21,298,691	22,171,850	
		国・県補助金	18,405,000	20,564,000	19,458,000	18,949,000	17,378,000	19,030,000	
		市補助金	0	312,029	329,724	0	344,911	444,673	
		(長岡)市補助金	0	888,083	405,814	0	437,981	547,290	
		(魚沼)市補助金	0	0	532,631	0	574,851	718,317	
事業者負担		369	89	956	495	1,159,078	509,923		

(単位 乗車密度:人 左記以外:円)

補助金内容／バス路線		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	収益比較 (H24/29)	
(県単・市単)廃止路線代替バス運行費補助									
⑨ 小千谷～川井～南小中学校線 (川口駅～南小中学校線は補助対象外)	乗車密度(人)	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.1	0.0	
	差額(B)-(A)	△8,444,080	△6,988,232	△6,705,235	△6,717,604	△7,086,388	△6,795,649	1,648,431	
	経常費用(A)	12,351,675	10,206,427	9,944,683	9,963,099	10,355,213	10,114,455		
	収入内訳	経常収益(B)	3,907,595	3,218,195	3,239,448	3,245,495	3,268,825	3,318,806	
		県・市補助金	5,352,000	4,556,000	4,415,000	4,424,000	4,664,000	4,532,000	
		(長岡)市補助金	2,704,000	2,430,000	2,288,000	2,293,000	2,417,000	2,220,000	
事業者負担		388,080	2,232	2,235	604	5,388	43,649		
(市単)過疎地域路線バス運行補助金									
⑩ 小千谷～吉谷～若栃線 【H29.3.31廃止】	乗車密度(人)	0.9	1.7	1.0	0.7	0.7		△0.2	
	差額(B)-(A)	△4,924,638	△4,173,300	△4,888,151	△5,159,962	△5,435,505		△510,867	
	経常費用(A)	6,553,000	5,679,952	5,792,199	5,825,576	6,076,524		(H24/H28)	
	収入内訳	運賃収入(B)	1,628,362	1,506,652	904,048	665,614	641,019		
		市補助金	3,233,000	3,233,000	3,233,000	3,233,000	4,500,000		
事業者負担		1,691,638	940,300	1,655,151	1,926,962	935,505			
⑪ 小千谷～浦柄～岩間木～塩谷線	乗車密度(人)	1.6	3.0	2.8	2.5	1.9	2.6	1.0	
	差額(B)-(A)	△1,954,571	△8,522,939	△8,930,757	△9,350,888	△10,855,750	△10,917,690	△8,963,119	
	経常費用(A)	2,878,000	12,700,318	12,934,083	13,037,001	13,609,994	14,024,288		
	収入内訳	経常収益(B)	923,429	4,177,379	4,003,326	3,686,113	2,754,244	3,106,598	
		市補助金	1,954,000	1,954,000	2,176,000	1,906,000	2,176,000	2,176,000	
事業者負担		571	6,568,939	6,754,757	7,444,888	8,679,750	8,741,690		
(市単)シャトルバス補助金									
⑫ サンラックおぢや～ちぢみの里 ※H29.4.1循環バスに移行	乗車密度(人)	1.6	3.1	4.2	3.6	1.6		0.0	
	差額(B)-(A)	△2,744,220	△2,958,888	△3,302,118	△3,686,831	△3,524,119		△779,899	
	経常費用(A)	4,837,000	4,907,000	5,111,000	5,317,000	5,280,000		(H24/H28)	
	収入内訳	経常収益(B)	2,092,780	1,948,112	1,808,882	1,630,169	1,755,881		
		市補助金	2,744,000	2,958,000	3,302,000	3,400,000	3,400,000		
事業者負担		220	888	118	286,831	124,119			
(国庫フィーダー)循環バス補助金									
⑬ 小千谷総合病院発着 【内回り・外回り】 ※H29.4.1運行開始(H29実績はH29.9.30まで)	輸送人員(人/回)						6.8		
	差額(B)-(A)						△9,424,734		
	経常費用(A)						11,385,954		
	収入内訳	経常収益(B)						1,961,220	
		国補助金						2,935,000	
		市補助金						5,600,000	
事業者負担							889,734		

(単位 乗車密度:人 左記以外:円)

補助金内容／バス路線		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	収益比較 (H24/H29)	
(市単)乗合タクシー運行補助金									
⑭ 池の平線	乗車密度(人)	2.0	1.8	1.6	1.4	2.2	1.7	△0.3	
	差額(B)-(A)	△4,985,952	△5,686,022	△5,853,830	△5,786,380	△5,665,690	△5,697,640	△711,688	
	運行経費(A)	5,556,040	6,146,400	6,291,720	6,164,730	6,162,120	6,153,110		
	収入内訳	運賃収入(B)	570,088	460,378	437,890	378,350	496,430	455,470	
		市補助金	4,985,952	5,686,022	5,853,830	5,786,380	5,665,690	5,697,640	
⑮ 北山線 (北山～若栃間)	乗車密度(人)	1.0	1.0	1.1	1.0	1.1		0.1	
	差額(B)-(A)	△72,740	△73,040	△58,160	△73,220	△97,050		△24,310	
	運行経費(A)	77,340	77,640	64,160	80,270	107,400		(H24/H28)	
	収入内訳	運賃収入(B)	4,600	4,600	6,000	7,050	10,350		
		小千谷市補助金	72,740	73,040	58,160	73,220	97,050		
(北山～市街地) ※H29.4.1～	乗車密度(人)						2.5		
	差額(B)-(A)						△4,777,360		
	運行経費(A)						5,239,880		
	収入内訳	運賃収入(B)						462,520	
小千谷市補助金							4,777,360		

資料:越後交通株式会社・南越後観光バス株式会社・小千谷タクシー・中央タクシー・観光交流課

□ 高速バス利用状況

《県外高速：新潟＝東京線》

○小千谷インターチェンジ停留所

(単位 発券数合計:枚 利用者数:人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
発券数合計	19,236	17,120	16,859	16,283	14,589	13,584
1日当たり平均利用者数	52.7	46.9	46.2	44.6	39.9	37.2
利用者数	① 19,236	17,119	16,859	16,283	14,549	② 13,585

資料:越後交通(株)

《県内高速：新潟＝十日町線》※運行回数：平成25年まで5往復/日、平成26年から2往復/日

○小千谷インターチェンジ停留所

(単位:人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1便当たり平均乗車人数	1.2	1.7	1.6	1.3	1.2	0.9
1便当たり平均降車人数	1.4	1.8	1.4	1.1	0.9	0.7
利用者数	③ 9,490	12,688	4,308	3,396	3,038	④ 2,190

資料:越後交通(株)

○片貝停留所

(単位:人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1便当たり平均乗車人数	0.010	0.075	0.010	0.070	0.005	0.003
1便当たり平均降車人数	0.005	0.030	0.007	0.010	0.008	0.026
利用者数	⑤ 57	383	25	25	18	⑥ 43

資料:越後交通(株)

高速バス利用者合計

平成24年度(①+③+⑤)	28,783	≒	29,000	人
---------------	--------	---	--------	---

平成29年度(②+④+⑥)	15,818	≒	16,000	人
---------------	--------	---	--------	---

□ 岩沢地区コミュニティバス運行状況

(単位 運行回数:回 乗車人員:人)

	合 計		生活交通利用		間合利用 (コミュニティ活動)	
	運行回数	乗車人員	運行回数	乗車人員	運行回数	乗車人員
平成16年度	59	206	41	111	18	95
平成17年度	110	380	53	102	57	278
平成18年度	127	647	44	77	83	570
平成19年度	135	861	40	62	95	799
平成20年度	141	1,031	29	59	112	972
平成21年度	148	1,027	25	53	123	974
平成22年度	159	1,153	28	46	131	1,107
平成23年度	181	1,292	21	25	160	1,267
平成24年度	191	1,320	26	39	165	1,281
平成25年度	201	1,555	34	45	167	1,510
平成26年度	216	1,479	40	49	176	1,430
平成27年度	216	1,534	23	27	193	1,507
平成28年度	246	1,763	20	22	226	1,741
平成29年度	247	1,562	27	28	220	1,534
比較(H24/29)	56	242	1	△11	55	253

資料:岩沢地域振興協議会

○コミュニティバス

生活交通空白地域や不便地域の解消を図るため、市町村が主体的に計画し、自らまたは運行管理を委託して運行するもの

★岩沢地区コミュニティバス

生活交通空白地域である岩山、池ノ又、外之沢の生活交通を確保するため、平成16年10月1日から運行開始。運行管理を岩沢地域振興協議会へ委託し、市の車両を貸与することで、地域が自ら運行管理している。

□ 乗合タクシー運行状況

(単位 運行回数:回 乗車人員・乗車密度:人 経費・収入:円)

運行区間 池の平～市街地	池の平線乗合タクシー				
	運行回数	乗車人員	乗車密度	運行経費	運賃収入
平成24年度	760	1,496	2.0	5,556,040	570,088
平成25年度	767	1,399	1.8	6,146,400	460,378
平成26年度	763	1,253	1.6	6,291,720	437,890
平成27年度	747	1,010	1.4	6,164,730	378,350
平成28年度	748	1,617	2.2	6,162,120	496,430
平成29年度	749	1,299	1.7	6,153,110	455,470
比較(H24/29)	△11	△ 197	△ 0.3	597,070	△ 114,618

※平成29年4月～小千谷総合病院移転に伴い経路変更

資料:観光交流課

(単位 運行回数:回 乗車人員・乗車密度:人 経費・収入:円)

運行区間 北山～若栃 ※H29.4.1～ 市街地へ延伸	北山線乗合タクシー				
	運行回数	乗車人員	乗車密度	運行経費	運賃収入
平成24年度	46	46	1.0	77,340	1,681
平成25年度	44	46	1.0	77,640	4,600
平成26年度	36	40	1.1	64,160	6,000
平成27年度	47	47	1.0	80,270	7,050
平成28年度	61	69	1.1	107,400	10,350
比較(H24/28)	15	23	0.1	30,060	8,669

※平成29年4月1日～路線バス若栃線廃線に伴い市街地へ延伸

平成29年度	642	1,981	3.1	5,239,880	462,520
--------	-----	-------	-----	-----------	---------

資料:観光交流課

○乗合タクシー

バス路線や有効な交通手段を確保できない地域において、通院・買い物などの日常生活における移動のため、ワゴン車で周辺地域の利用者を乗り合わせて運行するもの。乗車定員は10人以下となる。

★池の平線

- ・平成21年4月1日から運行開始(池の平～本町～小千谷駅)
- ・平日:3往復定期運行。土日祝日:予約制
- ・平成29年4月1日から小千谷総合病院移転に伴い、市街地運行経路を変更

★北山線

- ・平成21年11月1日から試験運行(北山～若栃間)※若栃からは路線バス運行
- ・平成22年4月1日から本格運行開始
- ・1日:2往復。予約制
- ・平成29年4月1日から路線バス若栃線廃線に伴い市街地まで延伸

□ スクールバス運行状況

(平成30年度)

番号	小中学校名	路線名	乗車人数	
			小学校	中学校
1	東小千谷小学校・東小千谷中学校	東山・浦柄・横渡・菫生地区	3	12
2	小千谷小学校・小千谷中学校	坪野・山谷地区	39	15
3	東山小学校	蘭木・岩間木地区	10	/
4	吉谷小学校・小千谷中学校	真人北部地区・池ヶ原地区	16	9
5	南小学校	内ヶ巻・川井・真皿地区	17	/
6	南小学校	戸屋・冬井・岩沢地区	22	/
7	南小学校・南中学校	真人地区	21	16
8	南小学校・南中学校	卯ノ木・塩殿地区 岩沢地区	32	9
9	小千谷中学校	真人北部・吉谷地区	/	26
小学校:8路線、中学校:6路線			160	87

資料:学校教育課

□ 路線バス・乗合タクシー通学定期券発行状況

(平成30年度)

番号	小中学校名	路線名 (地区)	乗車人数	
			小学校	中学校
1	小千谷小学校 (3年生以下はタクシー)	長岡一十日町線 (上片貝)	5	/
2	小千谷中学校	長岡一十日町線 (上片貝)	/	2
3	小千谷中学校(下校のみ)	小千谷一川西一十日町線 (池ヶ原)	/	9
4	東小千谷小学校	小千谷一川口一小出 (木津大原)	3	/
5	千田中学校	小千谷-三仏生-長岡線 (五辺・高梨)	/	23
6	南中学校	小千谷-川井-南小中学校線 (川井)	/	4
7	南中学校	池の平乗合タクシー (戸屋)	/	1
小学校:2路線、中学校:5路線			8	39

資料:学校教育課

小千谷市公共交通マップ

【平成30年4月1日改正】

◎運行内容については変更される場合があります。
必要に応じて運行事業者等にご確認ください。

※各バス路線の主要停留所時刻表ならびに、JR(上越線・飯山線)の列車の時刻表は、裏面をご覧ください。

市内の主な施設

- A 小千谷市役所
- B サンブラザ(小千谷市総合産業会館)
- C 小千谷総合病院
- D 市民の家 おちゃ〜る
- E 小千谷総合体育館
- F サンラックおぢや
- G JR信濃川発電所
- H 小千谷駅
- I 片貝総合センター
- J 小千谷市民会館(図書館)
- K 小千谷市勤労青少年ホーム
- L 道の駅 ちぢみの里

市内の主な観光施設

- I 錦鯉の里 おみやげお食事処 サンブラザ
- II 船岡公園西軍墓地
- III 楽集館・そなえ館
- IV 木喰上人作 三十三観音他二像
- V 小千谷闘牛場
- VI 慈眼寺(河井・岩村会見の間)
- VII 明石堂
- VIII 木造愛染明王坐像(妙高寺)

凡例 文……市内小中学校 ⊗……市内高等学校



- ### 市内タクシー乗り場
- ① 小千谷駅
 - ② 小千谷総合病院
 - ③ イオン小千谷店
 - ④ 小林整形外科
 - ⑤ 平成 [中央タクシー事業所]
 - ⑥ 本町 [小千谷タクシー・商工会議所]
 - ⑦ 本町 [小千谷タクシー・旧スクランブル交差点]
 - ⑧ 本町 [中央タクシーのりば]
 - ⑨ 城内 [小千谷タクシー事業所]



- ① 十日町 - 小千谷 (一部 小千谷総合病院経由) - 長岡駅前線
小千谷インター
【①-① 十日町 - 小千谷 (一部 小千谷総合病院経由) - 長岡駅前】
【①-② 小千谷インター - 長岡駅前】
※小千谷市街地での停留所にご確認ください
- ② 小千谷車庫前 - 片貝 (小栗田・坪野) - 長岡駅前線
【②-① 本町 - 平沢町 (一部 小千谷総合病院経由) - 小栗田経由】
【②-② 本町 - 市役所前 - 西高入口 - 坪野経由】
- ③ 小千谷車庫前 - 三仏生 - 長岡駅前線
(フリーバス/北五辺 ~ 稲荷様間は自由に乗降できます)
- ④ 循環線(内回り・外回り)
【小千谷総合病院発着で1周50分】
- ⑤ 小千谷(小千谷総合病院) - 浦柄 - 岩間木 - 塩谷線
【⑤-① 小千谷総合病院 - 市役所前経由 --- 塩谷】
【⑤-② 小千谷総合病院 - 西高入口 - 坪野 - 岩間木】
(フリーバス/岩間木 ~ 塩谷間は自由に乗降できます)
- ⑥ 小千谷 - 川西 - 十日町線
- ⑦ 小千谷(小千谷総合病院) - 川井 - 南小中学校線
(フリーバス/内ヶ巻駅 ~ 岩間橋間は自由に乗降できます)
- ⑧ 小千谷 - (小千谷総合病院経由) - 小国線
(フリーバス/上栗 ~ 小国車庫間は自由に乗降できます)
- ⑨ 小千谷(小千谷総合病院) - 川口 - 小出線
- ⑩【池の平線乗合タクシー】
池の平 ~ 市街地
(土曜、日曜、祝日、12/31 ~ 1/3は予約運行)
- ⑪【北山線乗合タクシー】
北山 - 若橋 - 吉谷 ~ 市街地
(月 ~ 金曜の朝1便以外は、予約運行)
- ⑫【岩沢地区コミュニティバス】
岩沢 - 外ノ沢
(岩沢住民センター、予約運行)

□ 「第4次小千谷市生活交通確保計画」策定の経過

年 月 日	会 議 名	会議内容
平成 30 年 7 月 31 日	第1回策定委員会	基本方針・今後の進め方
平成 30 年 8 月 1 日	第1回ワーキングチーム	同 上
平成 30 年 12 月 10 日	第2回ワーキングチーム	現状と課題の検討
平成 30 年 12 月 25 日	第2回策定委員会	同 上
平成 31 年 1 月 11 日	第3回ワーキングチーム	方針と方策の検討
平成 31 年 1 月 18 日	第3回策定委員会	同 上
平成 31 年 1 月 23 日	市長	中間報告
平成 31 年 1 月 23 日	地域公共交通協議会	計画(案)配布・意見聴取
平成 31 年 1 月 25 日	議員協議会	計画(案)説明
平成 31 年 1 月 26 日～ 平成 31 年 2 月 17 日	パブリックコメント	
平成 31 年 2 月 20 日	地域公共交通協議会	計画(案)審議
平成 31 年 3 月 5 日	市長	計画(案)答申
平成 31 年 3 月 11 日	計画策定	

□ 「第4次小千谷市生活交通確保計画」策定委員会等名簿

□小千谷市生活交通確保計画策定委員会委員：9名

職名	氏名	備考
副市長（H30.12.21まで）	山崎 淳	委員長（H30.12.21まで）
総務課 課長	野澤 敏	
企画政策課 課長 副市長（H30.12.22から）	大塚 良夫	委員長（H30.12.22から）
建設課 課長	大矢 敏之	
市民生活課 課長	吉澤 靖	
社会福祉課 課長	渡邊 芳久	
保健福祉課 課長	長谷川 秀樹	
学校教育課 課長	井口 隆	
観光交流課 課長	遠藤 孝司	副委員長

□小千谷市生活交通確保計画策定ワーキングチームメンバー：8名

職名	氏名	備考
総務課 課長補佐	小川 民子	
企画政策課 課長補佐	岡元 義之	
建設課 都市整備室長	佐藤 俊夫	
市民生活課 課長補佐	佐藤 正行	
社会福祉課 課長補佐	大平 潤一	
保健福祉課 課長補佐	長谷川 靖之	
学校教育課 課長補佐	山本 和也	
観光交流課 課長補佐	波間 陽一	チームリーダー

□事務局

職名	氏名	備考
観光交流課 地域振興係長	増川 雅史	
観光交流課 主査	荻野 隆太	

第4次小千谷市生活交通確保計画

平成 31 年 3 月

小千谷市観光交流課（市役所分庁舎）

〒947-0028 小千谷市城内一丁目 13 番 20 号

TEL 0258(83)3512 FAX 0258(83)0871

E-mail chiiki@city.ojiya.niigata.jp

URL <http://www.city.ojiya.niigata.jp/>